

# ジェンダーとは何か？

武蔵大学社会学部教授 千田有紀  
sendayuki@gmail.com(お気軽に)



1. 『女性学/男性学』

2. 『ジェンダー論をつかむ』



# トランスジェンダー選手が東京五輪代表に、五輪出場は史上初 「不公平」と物議も

- ニュージーランドの重量挙げ選手で、トランスジェンダーのローレル・ハバード（43）が21日、東京五輪の女子87キロ超級の代表に選出された。トランスジェンダーの選手が五輪に出場するのは史上初。この決定に対し、ハバード選手には生物学的に有利で不公平だという声も上がっている。
  - ハバード選手は2013年に性別を移行する前は、男子の重量挙げ競技に出場していた。2017年世界選手権では銀メダルを獲得している。
  - 国際オリンピック委員会（IOC）が2015年にトランスジェンダー選手の出場について、男性ホルモンのテストステロン値が12カ月間にわたり一定以下なら、女子として競技することを認めるとするガイドラインを策定して以降、ハバード選手にはトランスジェンダー選手としてオリンピックに出場する資格があった。
- さらに、国際重量挙げ連盟（IWF）がパンデミック対策のため、出場資格の条件となる大会出場回数を6回から4回に減らしたことで、ハバード選手は東京五輪の出場権を獲得できた。

[HTTPS://WWW.BBC.COM/JAPANESE/57550038](https://www.bbc.com/japanese/57550038)





**RISE**  
**SPORTS**

## 陸上スポーツ と女性

1921年 国際女性スポーツ連盟が発足。

1926年 第2回の女子オリンピック大会を開催。

1928年 アムステルダムオリンピックから女子陸上競技(その後競技から外される)。

1960年 ローマ大会で女子800mが復活

1967年 ボストンマラソンでは、キャッシー・スウィツァーが制止を振り切って完走。

1970年 ニューヨークマラソンでは女性の参加が認められる。

1984年 ロサンゼルス大会で、女子マラソンが実施

1950年 (IAAF)が定めた、女性アスリートに対する義務的性別検査義務化

1966年ヨーロッパ陸上競技選手大会から、競技会での検査開始。医師の前を裸で歩く。外性器の目視

↓

1968年 メキシコシティオリンピックで染色体検査開始

1996年 アトランタオリンピックで廃止。ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法に(SRY遺伝子の検査)。

↓

2009年 セメンヤのアンドロゲン過剰症問題

2011年 テストステロン値が一般的な男性 の下限(10nmol/L)を越えないことがIOC、IAAF双方により規定された=高アンドロゲン規定。

2012年 ロンドンオリンピックのために女性のアンドロゲン過剰症に関するIOC規則

2015年 ジュディ・チャンド選手の裁判により、高アンドロゲン規定停止。

2018年 IAAFが「性的発達の差異」に関する新たな基準を採用。中距離競争でテストステロン値は6ヶ月継続して 5 nmol/L未満に抑えなければならない。

「特定のDSDを持つアスリートの体内にある高レベルの内因性テストステロンがスポーツ・パフォーマンスを有意に高め得ることについて、検証されたデータとフィールドからの証拠により 支えられた幅広い医学的・科学的合意がある」(IAAF, 2018 April 26)

2009年セメン  
ヤ選手 Caster  
Semanyaをめぐる騒動



# News

---

11日付のオーストラリア紙シドニー・モーニング・ヘラルドは、男性ではないかとの疑惑が浮上していた陸上の世界選手権ベルリン大会女子800メートル優勝のキャスター・セメンヤ(18)＝南アフリカ＝について、医学的検査の結果、男性と女性の生殖器を持つ両性具有であることが分かったと報じた。

同紙によると、男性的な体つきが指摘されていたセメンヤには卵巣がなく、男性ホルモンのテストステロンを大量に分泌する精巣が体内にあることが医学的報告で示されたという。同選手は先月のベルリン大会の後、血液や染色体のほか婦人科の検査を受けていた。国際陸連(IAAF)は対応を検討した上で結果を発表したい意向とみられるという。

# News2

国際オリンピック委員会が(2011年)4月5日に推奨し国際陸上競技連盟が(2011年)4月12日に認めた新しい女性の高アンドロゲン血症についてのガイドラインによると、生まれつきテストステロン濃度が高い女性は、女性としては競技できなくなるかもしれない。

この問題は2009年に南アフリカのCaster Semenyaが性判別検査を受けるよう求められたことで注目された。他にも問題になる事例があり、18ヶ月の議論の末ガイドラインが今週発表された。

IOCはまだカットオフレベルを決定していないが、通常閉経前の成人女性の総テストステロン濃度は15-70 ng/dLで、男性は260-1000 ng/dLであり、血中アンドロゲン濃度が男性並みの女性は女性としては競技に参加できないだろう。ただし例外もある。

高アンドロゲン血症でもテストステロン受容体が機能しないため遺伝子としては男性であっても女性となる場合がある。

この検査が実際に運用可能かどうか、何人のアスリートが排除されるのかは不明である。

また遺伝子の個人差を認めているようにホルモンの個人差も許容すべきであると主張する専門家もいる。

<http://www.nature.com/news/2011/110414/full/news.2011.237.html>

# 女性が「女子」に出られない 規定 東京五輪陸上で初適用 (朝日新聞)7月16日

ナミビア・オリンピック委員会は、陸上女子400メートルの金メダル候補など2人が、血中のテストステロン値が世界陸上連盟の基準を超えたため、同種目での五輪出場ができなくなったと発表した。テストステロンは性ホルモンの一種で、女性の分泌量は男性より少ない。東京五輪は、陸上女子の一部種目でテストステロン値を基準に参加資格を制限し、「女性」として生活している選手でも「女子」で競技できないというルールを導入する最初の五輪になる。

ナミビアの選手は、6月に女子400メートルで世界歴代3位の48秒54を出したクリスティン・エムボマ(18)と、同種目のメダル候補のベアトリス・マシリンギ(18)。2人はルールの対象外の200メートルで出場を目指すという

リオデジャネイロ五輪陸上女子800メートルのメダリスト=ロイター。左から銀のニヨンサバ(ブルンジ)、金のセメンヤ(南アフリカ)、ワンプイ(ケニア)





# IOC トランスジェンダー ガイドライン

2015年11月にIOCが公表した「トランスジェンダー・ガイドライン」は以下の通りです。

1. トランスジェンダーの選手が競技スポーツから排除されないよう、可能な限り出場機会を確保しなければならない。最も重要なのは公正な競争を担保すること。出場への制限は目的にかなない適切で必要な範囲であることが求められる。性別適合手術は不要。性別適合手術を参加の条件にすることは、法の進展と人権の概念と矛盾する可能性がある。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/23670d2fa45811f6aea5e3631f431bef5a125e3f>

# IOC トランスジェンダーガイドライン

---

2-1 女性から男性へ移行した選手の参加は条件なし。

2-2 男性から女性へ移行した選手の参加は、以下の条件で出場が可能。

(1) 性自認が女性であることを宣言していること。宣言した性自認は、スポーツ競技目的で、最低4年間は変更することはできない。

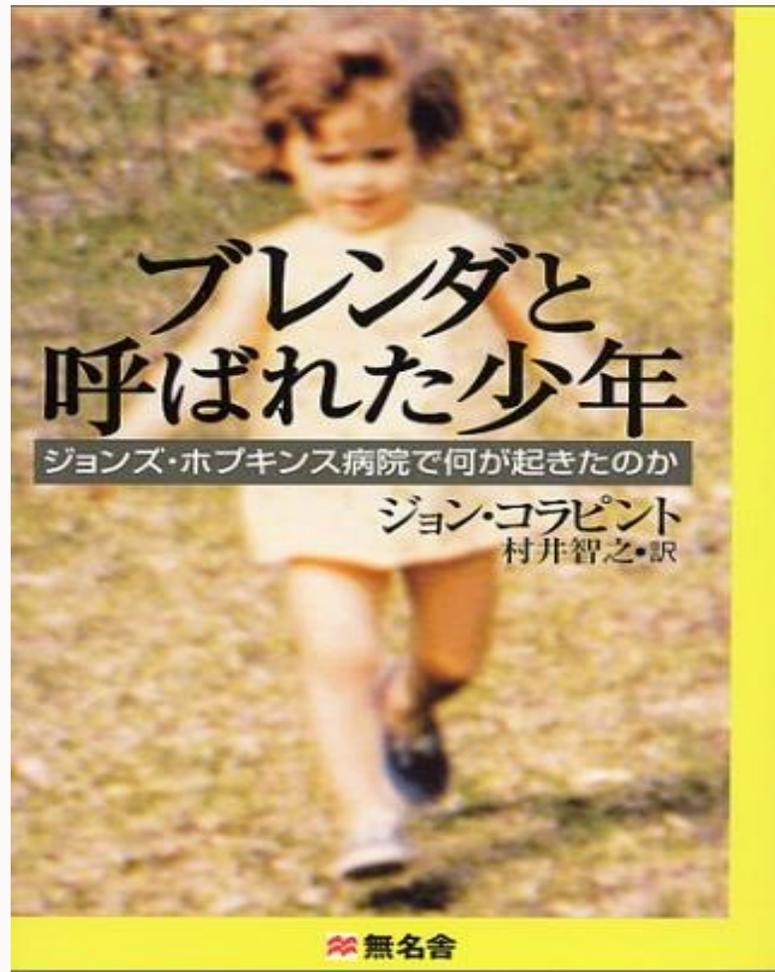
(2) 出場までの少なくとも1年間は、血清中の総テストステロン値(※注)が1リットル当たり10ナノモル以下を維持していること。

(3) 女性の競技に出場している期間、血清中の総テストステロン値が、常に上記(2)の数値を維持していること。

(4) 違反した場合は、女性の競技への参加資格が1年間停止される。※注: テストステロン値とはいわゆる男性ホルモン値のこと。筋肉を増強するとされるホルモンの一種。出典) IOC Consensus Meeting on Sex Reassignment and Hyperandrogenism (2015年11月)



# ジェンダーは変えられるのか？ (問題は生物学か社会的不正義か)





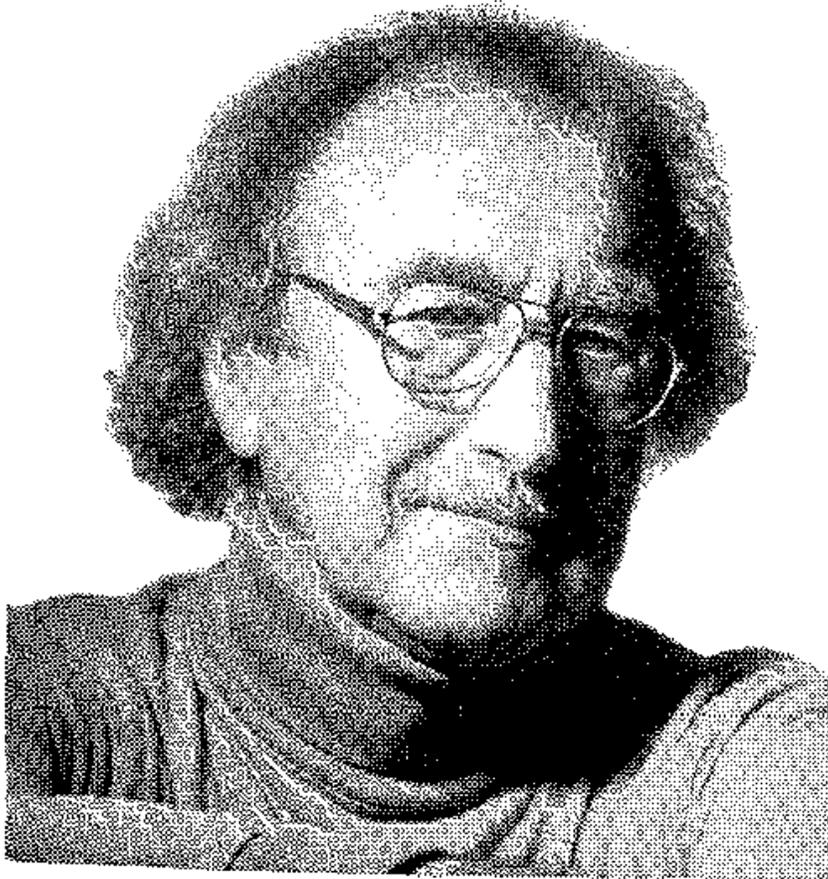
# 扶桑社版

AS NATURE MADE HIM  
= 生まれつきの性差はある

# ジョン・マネー

## 『性の署名』

### 1975=1979



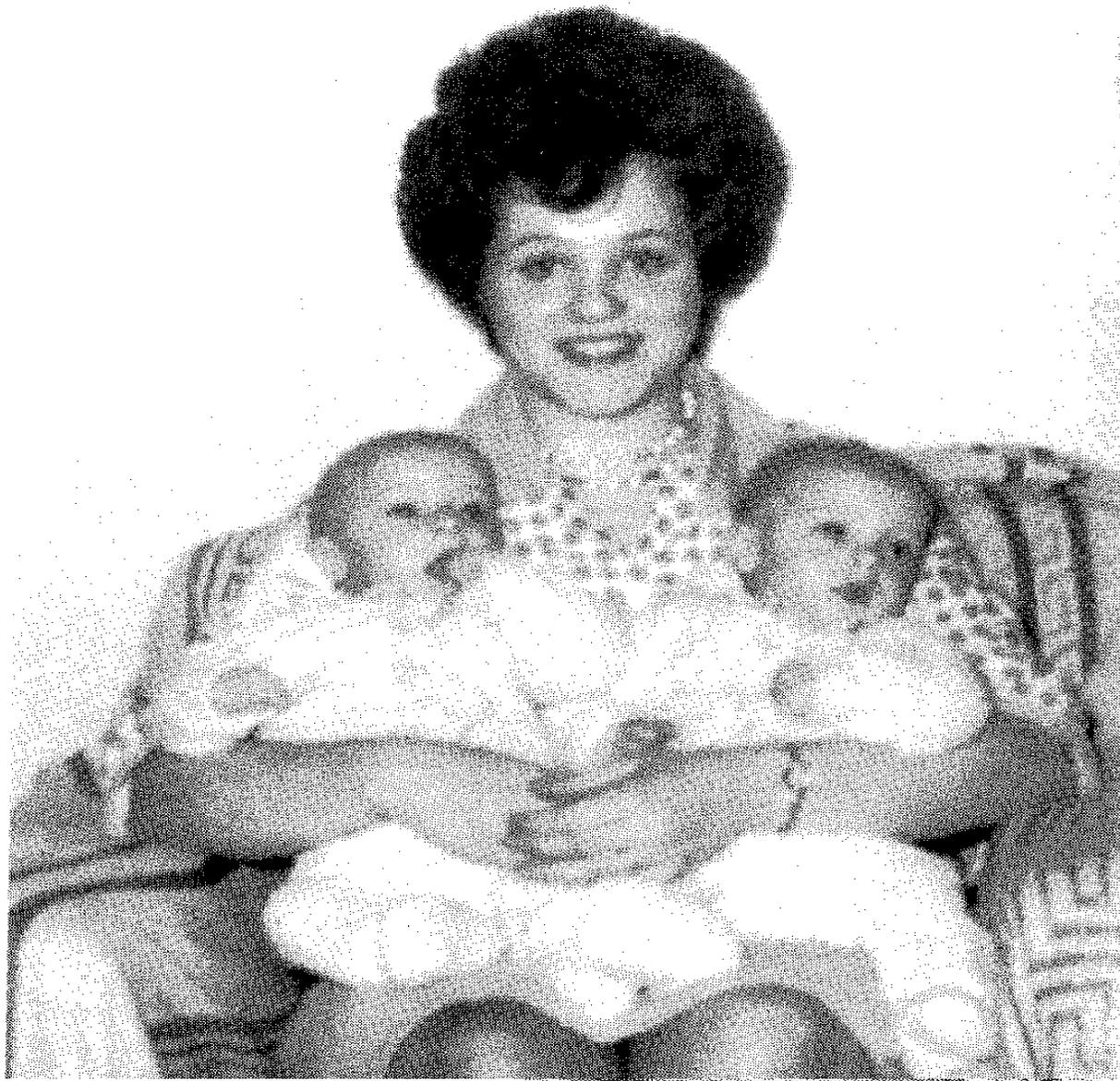
ジョン・マネー博士 (写真はマイク・ミッチェルによる)

- ジェンダー
- 性自認と性役割が表裏一体となったもの。
- 性自認(gender identity)は性役割(gender role)の内面的な経験であり、性役割は、性自認の表現なのである(18page)
- 。

あなたの持っている性に関する個人的概念である図式は、あなたの性自認・役割(gender identity/role)の枠組みとなる。この本では専門用語をほとんど使っていないが、「性自認」(gender identity)と「性役割」(gender role)という用語については十分に理解してほしい。これらの言葉はつい最近紹介されたばかりなので、誰もが同じように理解しているとはいえない(歴史的な説明については、Money, 1973aを参照されたい)。性自認とは前述したように、自分自身を男性または女性として認識することである。性役割とは、男性または女性としての自己認識を表現しているあらゆることがらをいう。性役割は、あなたが感じることを、考えること、行なうこと、言うことすべてを含んでいるわけで、これらのあらゆる言動はあなたが男性あるいは女性であることを——他の人々だけでなくあなた自身に対しても——表わしているのである。性自認と性役割は、二つの別々のもの

ではない。この二つは、一つのコインの表裏ということわざがあるように、同じ一つのものの違った側面なのである。つまり、あなたの性自認は性役割の内面的な経験であり、性役割は性自認の表現なのである\*。「性自認・役割」という用語は、この結び付きを強調したものである。

あなたの性自認・役割は、あなたの性別に対して社会が定義している文化的ステレオタイプに多少は一致している一方、あなた自身の生活の伝記的なきごと、あなたの肉体や人格パーソナリティをも反映している。ということは、あなたが使っている言語が文化的な言語のステレオタイプに多少は従っている一方で、あなたの肉体的な構造や、話すことを学習した状況、成長した場所やその過程、そしてあなたの人格をも反映しているのとまったく同じことである。社会と個人との間の連続的な相互作用は、常に両方の面にある程度の修正をもたらしているからである。



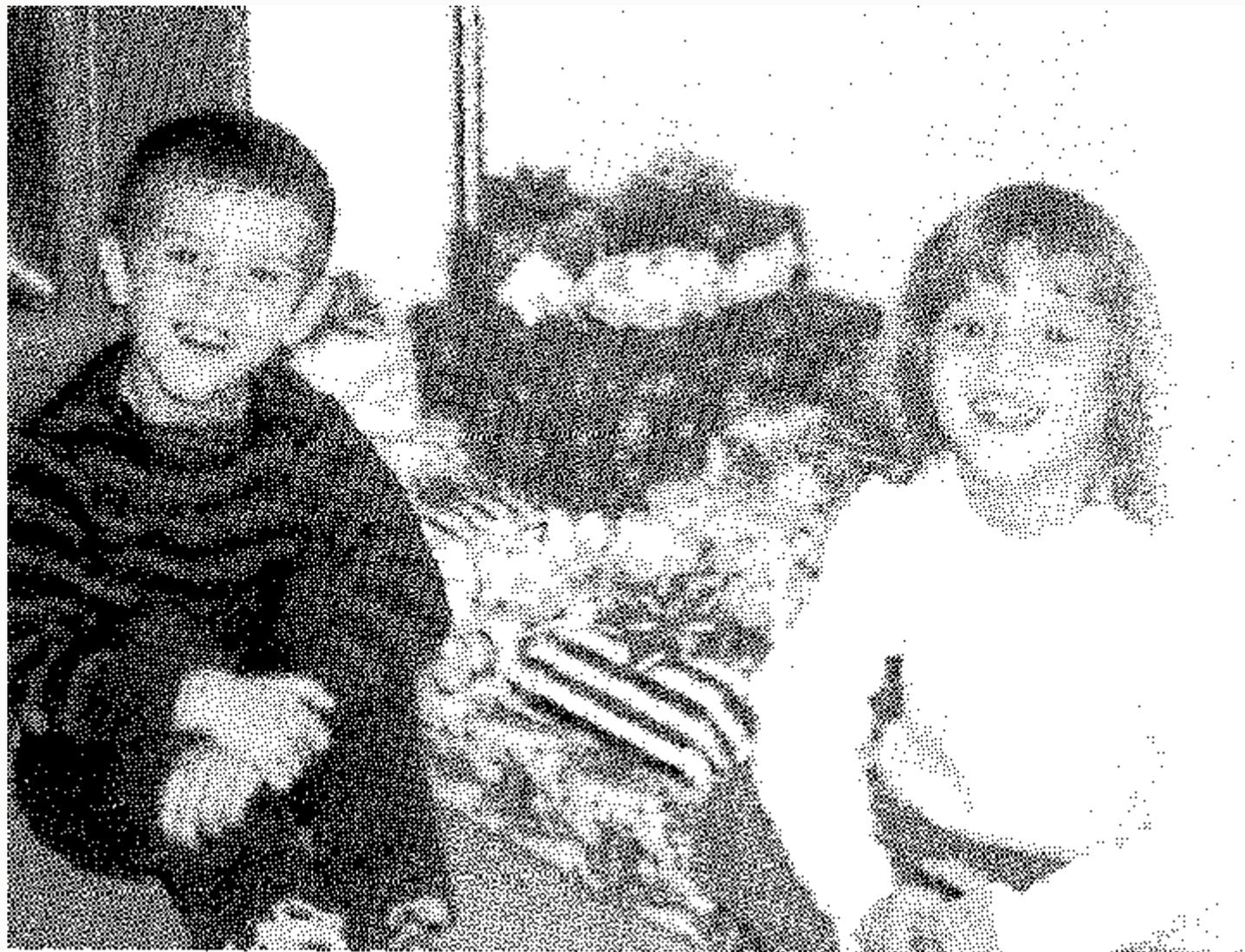
双子の息子、ブライアンとブルースを抱くジャネット。ブルースが性転換手術を受ける原因となった悲惨な事故は、この写真の撮影時から、まだ数カ月先のことである。(写真はレイマー家の好意による)



二歳のブレンダ、性別再判定手術を受けてまもなく。(写真はレイマー家の好意による)



よちよち歩きのブライアンとブレンダ。  
(写真はレイマー家の好意による)



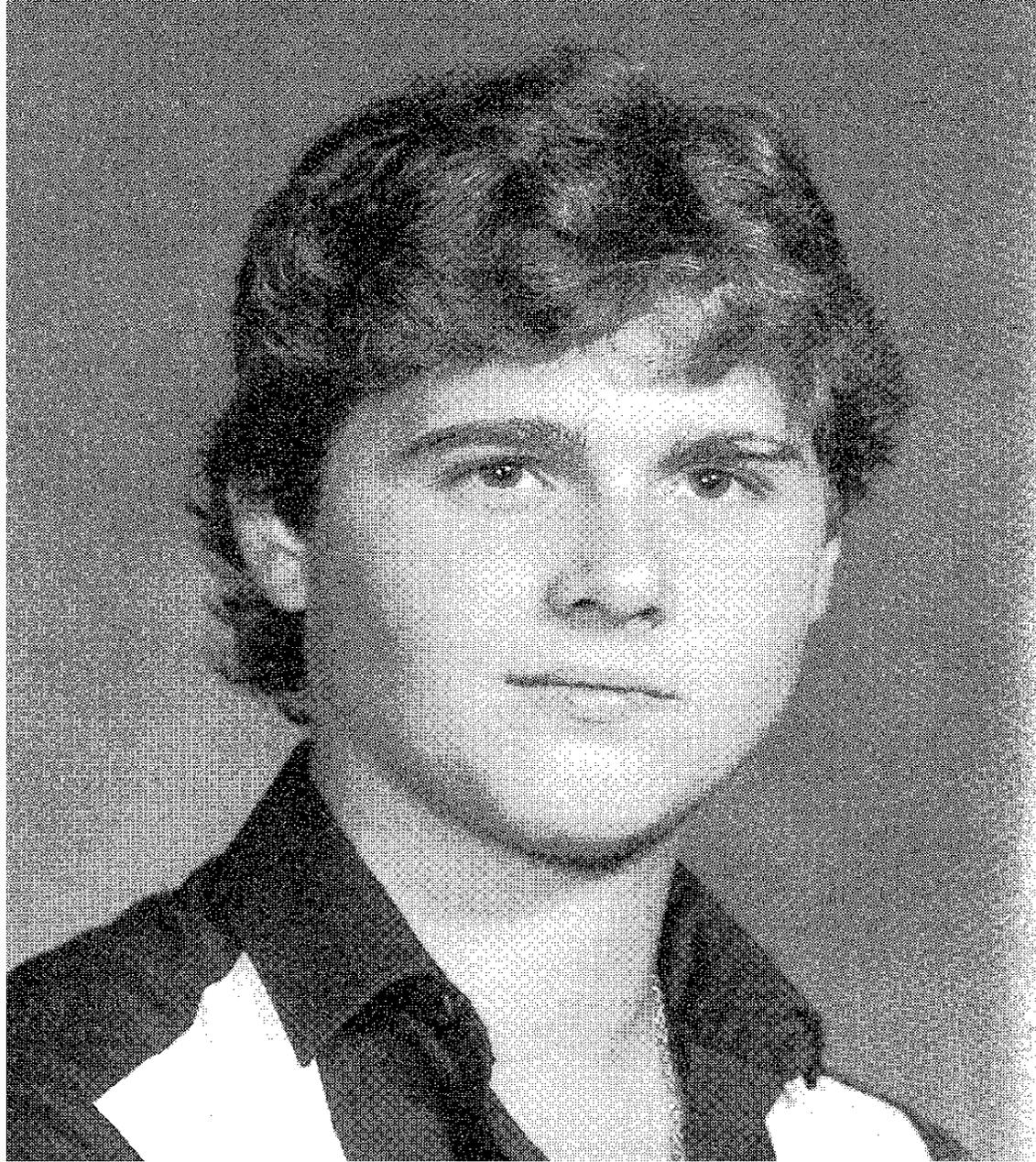
幼稚園に入園したてのころのブライアンとブリンダ。  
(写真はレイマー家の好意による)



10歳のブレンダ。「みんなにおまえは女の子だって言われつづけたけど」とのちにデイヴィッドは言う。「おれはいつだって思った、『自分は女の子のような感じがしない』って」(写真はレイマー家の好意による)



1980年5月、伯父の結婚式に出席したデイヴィッドとブライアン。デイヴィッドはこのときはじめて男の子として公の場に出た。デイヴィッドにはまだ、ブレンダであったころ胸の膨らみをごまかすために大食をした名残が見受けられる。膨らんだ胸はこの五カ月後に手術で切除され、テストステロンの投与によって、その背丈もすぐにブライアンに追いつくことになる。(写真はレイマー家の好意による)



18歳になったデイヴィッド（写真はレイマー家の好意による）



デイヴィッドとジェーン。一九九〇年九月二二日、ふたりの結婚式当日。ジェーンが持つ「真の心」をデイヴィッドが確信したのは、デイヴィッドの過去に関する真実を聞いたときのジェーンの反応だった。(写真はレイマー家の好意による)

# ジェンダーは変えられるのか？

## …この事件を通して学ぶもの

- 1. ペニス中心主義（ペニスがないと女でなくなってしまう）
- 2. ブルース=ブレンダ=ディビッドのフェミニズムへの理解
- 3. 内包される同性愛嫌悪
- 4. 言語の習得による臨界期の仮説（ジェンダーアイデンティティは揺らがない）
- 5. 「ジェンダー」の可塑性の可否をめぐるケースとなってしまった。
  - 一卵性双生児という条件
- 6. マネーによる性虐待

# セックスも変わる？



# 19世紀まで歌われた猥歌

- なるほど異性ではあるけれど、
- 女もだいたい男と同じ。
- よくよく調べた人なら知ってるように、
- 女はちょうど男の裏返し。

(ヴァギナは内側に入ったペニスであり、陰唇は包皮で、子宮は陰嚢、卵巣は睾丸であると考えられている)。

アンブロワーズ・パレやシャルル・モンテーニュには、「マリーがジェルマンに変わった話」がある。マリーという少女が麦畑で豚を追って溝を飛び越えようとしたときに、「まさにその刹那に睾丸と男根が体のなかで急激に発育し、それを包むように抑えていた靭帯を破って突出してしま」い、男性に変わってしまったというのだ。医者と司祭は、女性が男性に変わったと決議し、その後、マリーはジェルマンという名前の男性として暮らしたという。この例に対して、ラカーは「自己のジェンダーに不適切な振る舞いをすると、本当にセックスも変わると恐れている」と当時の人々が考えていたのではないかという解釈を与えている。熱が異なるだけで、男女が「構造的には同じ」身体をもっているとしたら、ふとした拍子に性転換が起こったとしても不思議ではない。



(1533年 - 1592年)



図16 モデルの女性は台座から降りて、派手な身ぶりで自分の子宮を指し示し「見てのとおり、子宮頸部はペニスそっくりです」と言っている。同じくベレンガーリョより。

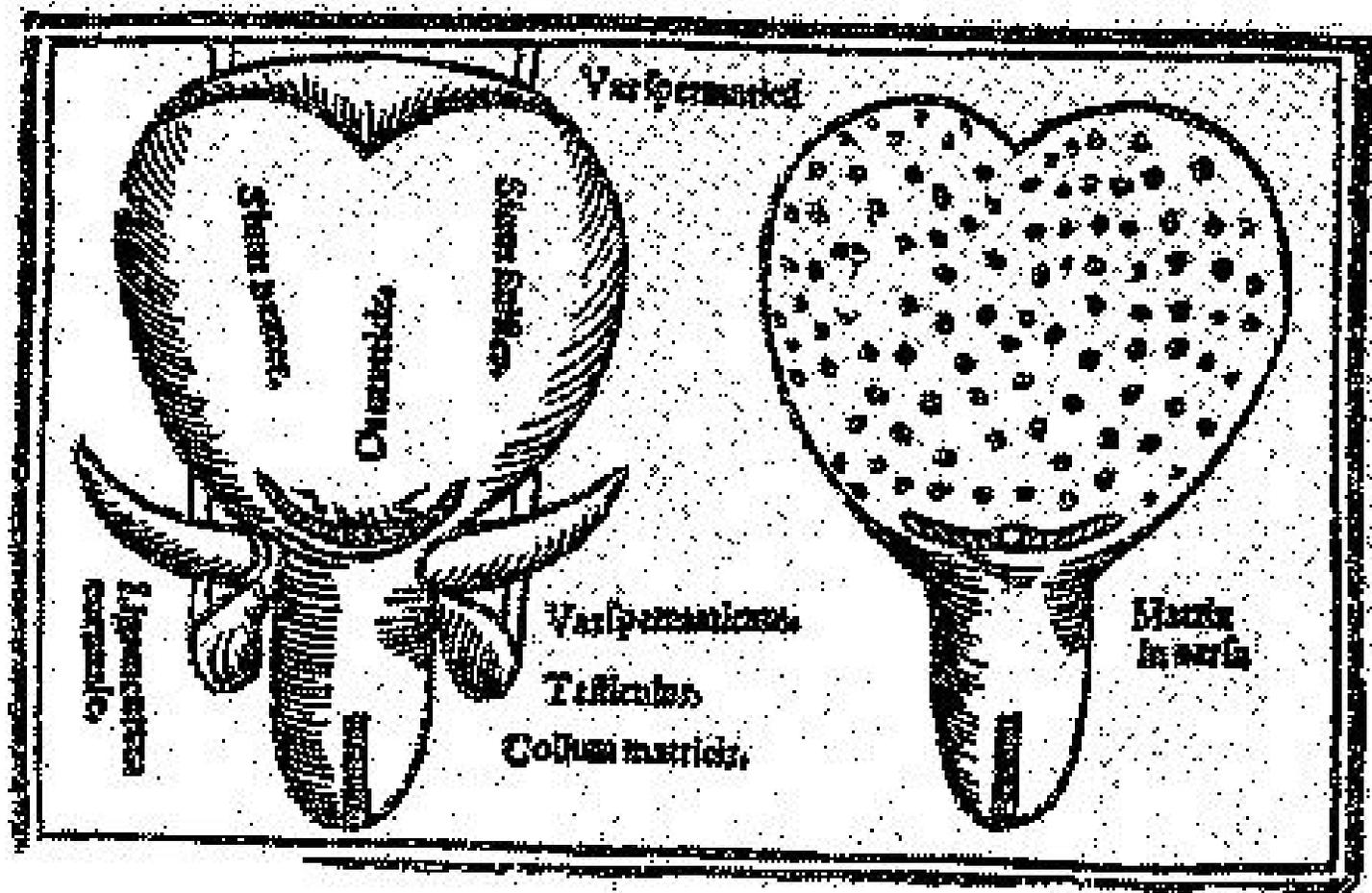


図17 (上) 子宮とその付属器官に名前が付けられているが、これは男性と女性の器官の対応性をもう一度——「納得してもらうには十回は繰り返さなければならない」——はっきりさせるためである。ベレンガーリヨより。

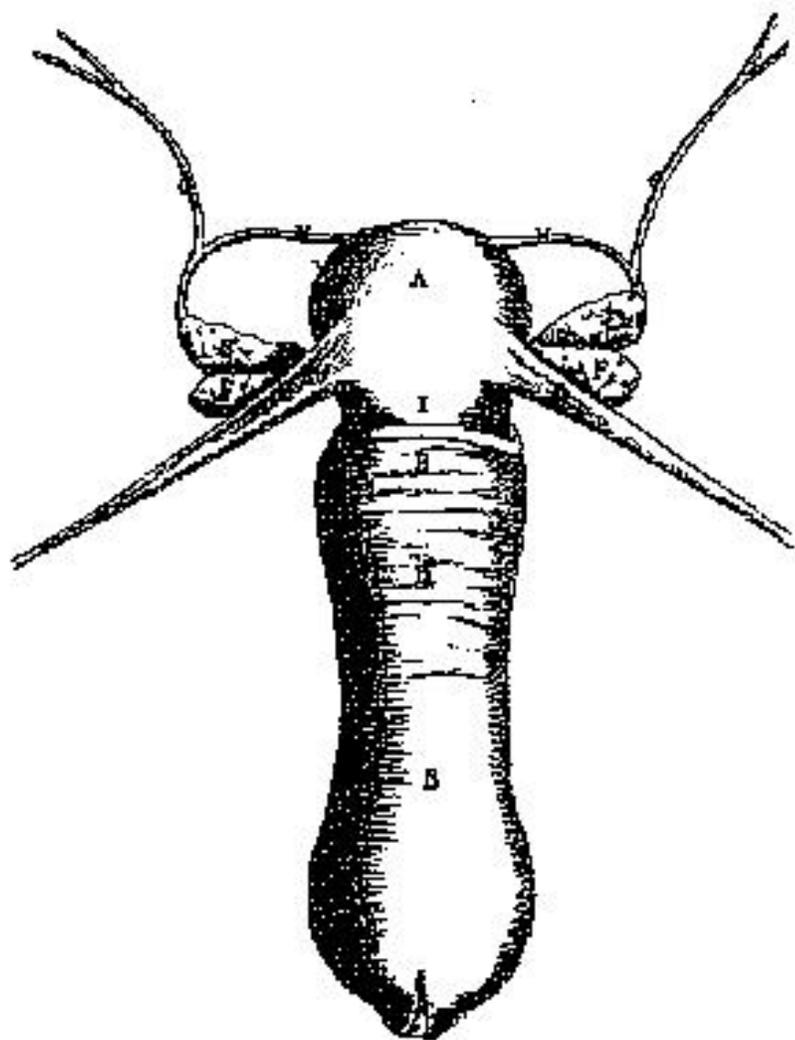


図20 (上左) ペニスのようなヴァギナ。ヴァサリウス『ファブリカ』より。  
図21 (上右) ヴィデユ・ヴィディウス『人体解剖学』(1611)より。

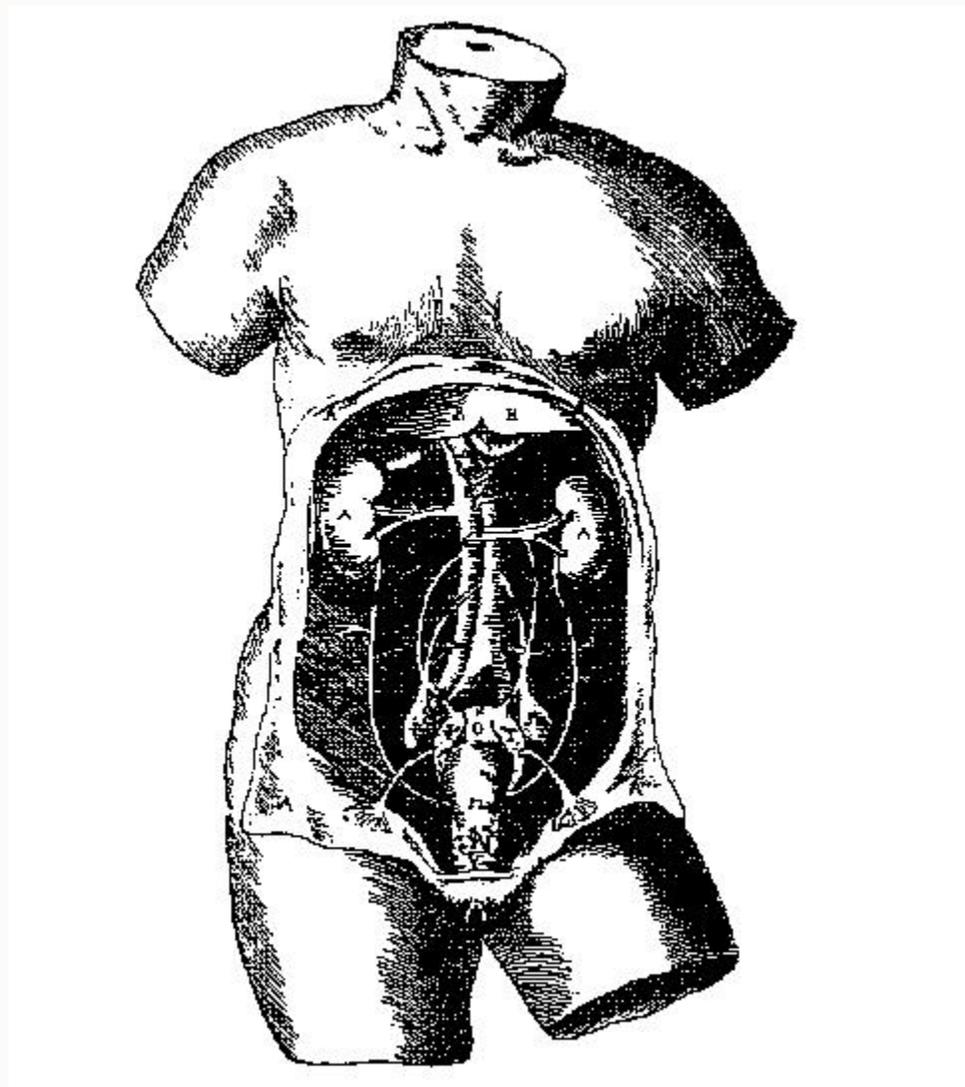


図22（下）当時の美術・科学の慣習どおり古典美術風に造形された女性のトルソ。図21のペニスのようなヴァギナは、この像からとり出されている。

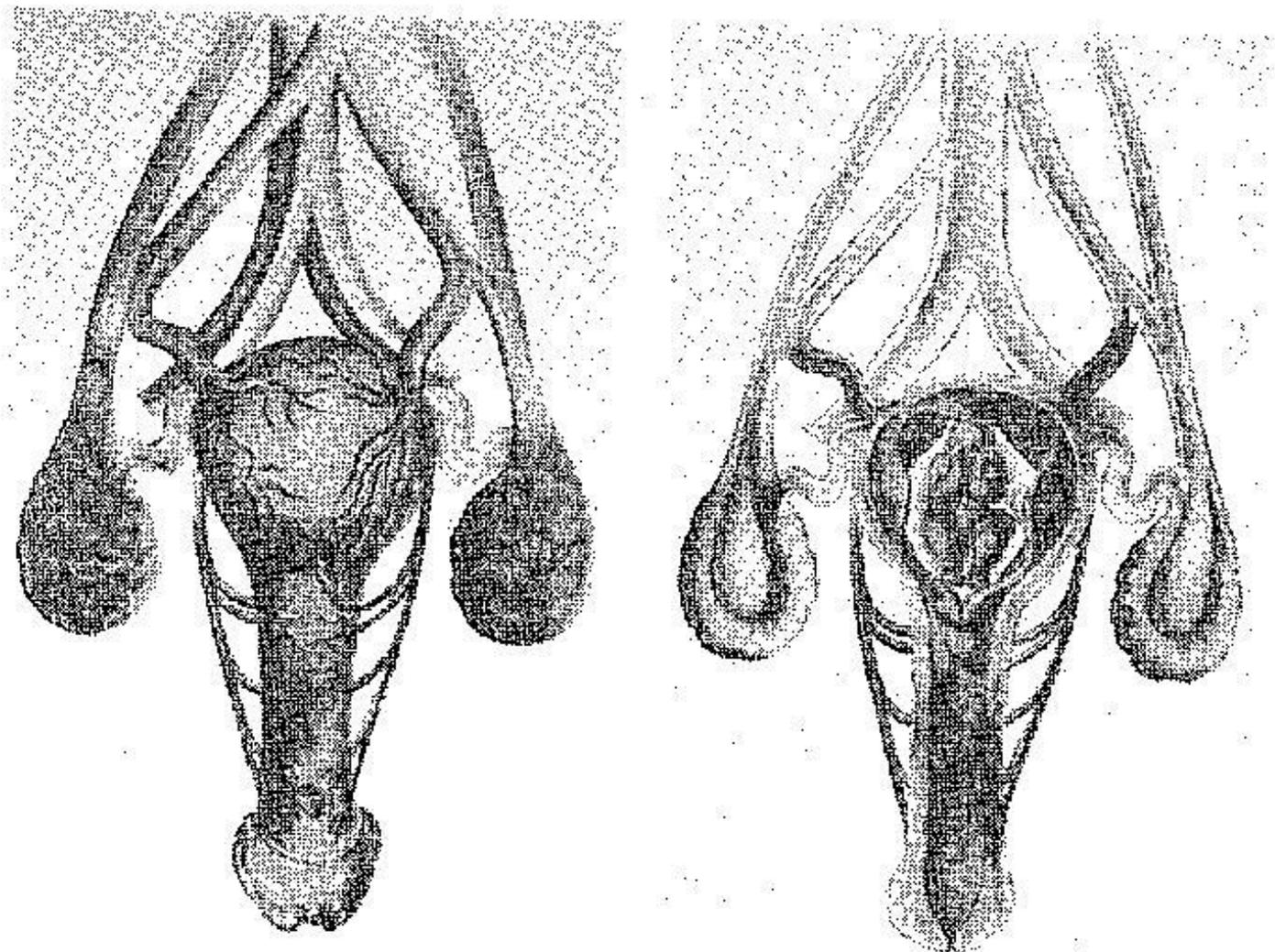


図30・31 ゲオルグ・バルティッシュ『美術書』(1575)からとった図で、左側はペニスのような女性生殖器官。右側は中が見えるように子宮の正面が切りとられている。

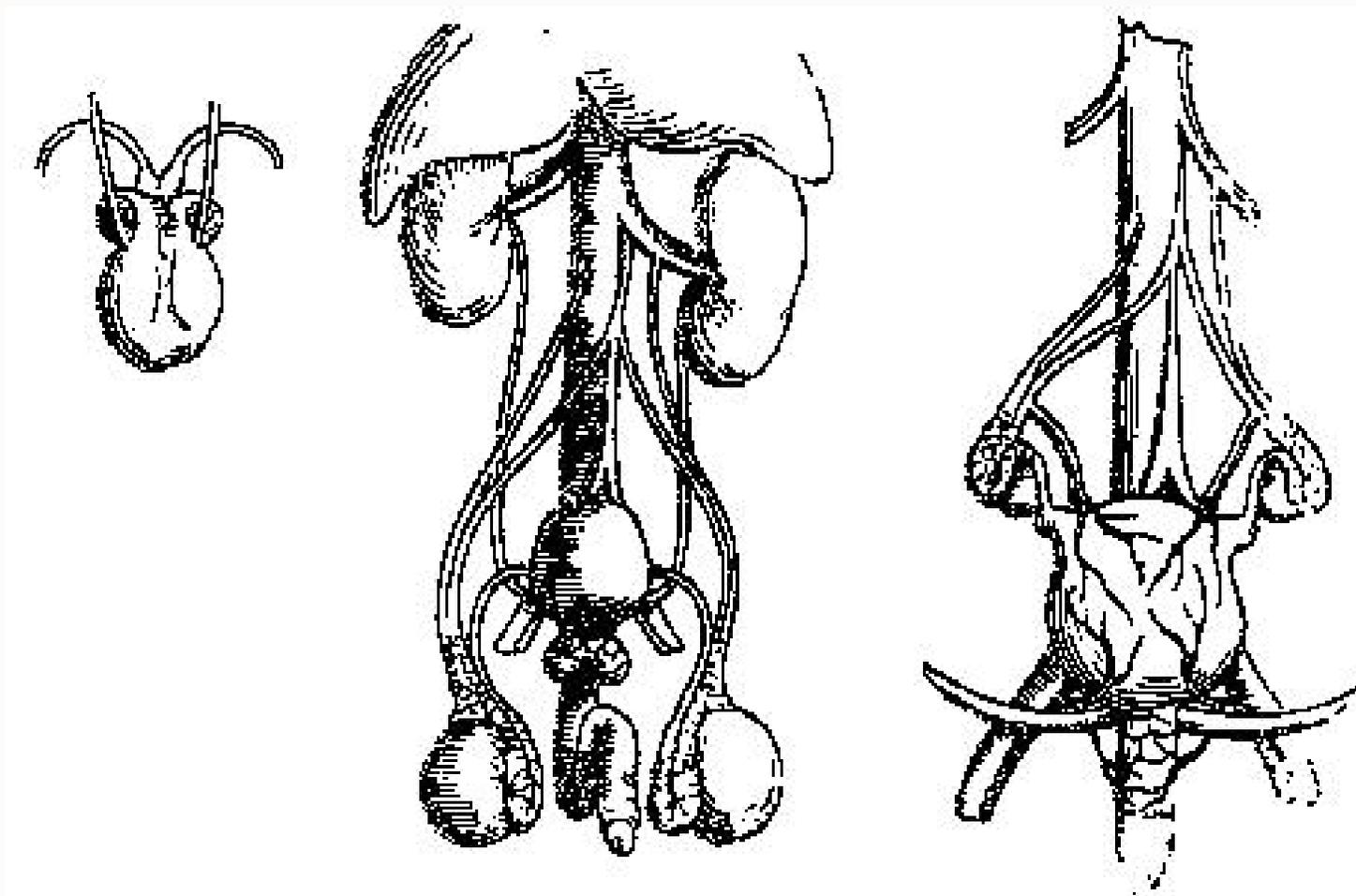


図18（下）対応性を実証するために男性と女性の器官が並置されている。ヴェサリウス『性図解』より。

- ワンセックスの世界においては、男性と女性のオルガスムスについて個々の解釈に違いはあっても、全体としては以下の点で意見が一致していた。
- (1) うまく受精した性交では、両性はともに大きな快感を得る
- (2) 通常は両性が放出物を出す
- (3) 快感は出された物質の性質と「呼気」の激しい推進力の両方に由来する
- (4) 子宮は射精するだけではなく、両性の精液が混ざったものを吸い込んで保持するという役割もはたす

# ツェツクスモデルの誕生

- 男性と女性は身体上の性別、すなわちセックスが違っただけではなく、身体と魂、肉体と精神のすべての面において異なるのである。
- 女性の身体のどの部分も、等しく一つの差異を示している。すべてが額が、鼻が、目が、口が、耳が、顎が、頬が一女性を表わしているのだ、われわれの眼を内側に向け、メスの助けを借りて各器官、組織、繊維を外にさらしてみれば、いたるところで、この差異に出会っだろう



- ラカーはこのガレノスに基づいた身体観に「ワンセックス・モデル」という名前を与えている。女性も男性の身体も、構造的には同じである、つまり「ワンセックス」が存在するだけの世界。18世紀の終わりまではこの身体観に基づいて、ヨーロッパの人々は生きていた。

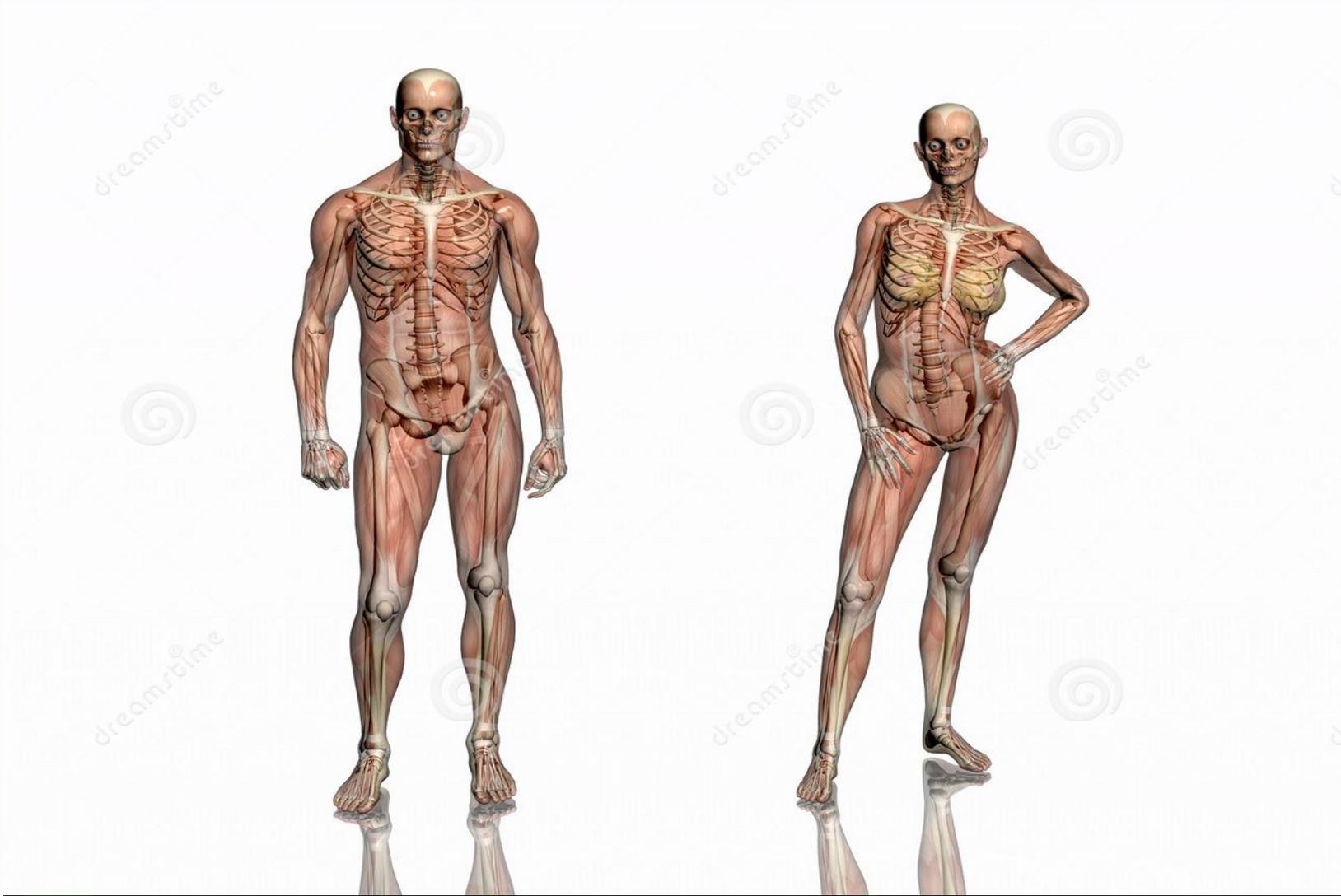
- たとえば妊娠は、今では卵子と精子の結合である受精の結果であると考えられるが、長くは体液が重要視されてきた。つまり妊娠は、男女ともが精液を出すことによって起こる。女性もオルガスムスを得て子宮から射精し、両性の精液がまじりあわなければ、妊娠に至らないと考えられてきた。

- 2012年の8月にアメリカ共和党の現職下院議員が、「まっとうなレイプ」の場合には、女性の体が生物学的な反応を示すために、妊娠することはほとんどないと発言して批判を浴びたが、まさに「前近代的な身体観」とはこのようなものであった。もちろん彼の発言は批判を浴びたとでも容認されるものではないだろう。

- ツーセックス・モデルの身体観は、男と女の身体は正反対のものであるというものだ。男性の身体は力強く、女性の身体は柔らかい。身体の隅々に至るまで、男性と女性の身体は、異なっていると考えられている。そして妊娠に女性のオーガズムは必要ではなく、むしろ女性には性欲はないと。この身体観の詳細な説明は不要であろう。

ワンセックス・モデルは、現在のわたしたちから見るととても奇妙で、「間違っている」だけのように見える。しかし問題はそう簡単ではない。ラカーはトマス・クーンのパラダイムの理論を、「彼の対象とした物理学よりも解剖学のほうにこそ、規範的例証を見い出せると思う」とさえいっている。そう考えればわたしたちの今の身体観も、また新たなパラダイムが作られさえすれば、全く書き換えられる可能性をもっている。





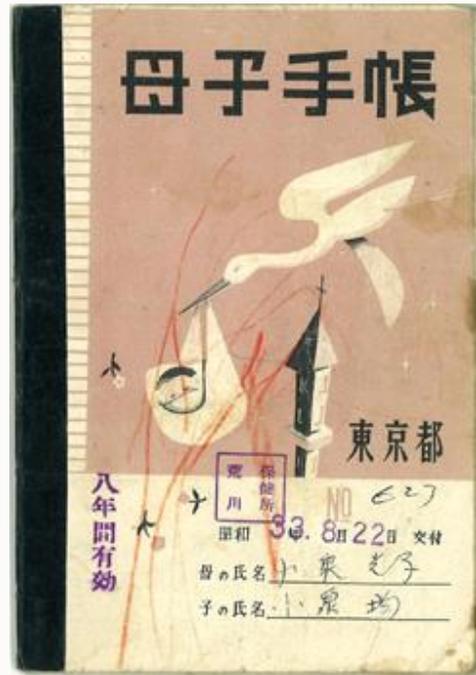
Download from  
**Dreamstime.com**

This watermarked comp image is for previewing purposes only.

ID 333859

© Patrick | Dreamstime.com

1759年以降



# 母子手帳

分娩の経過 (母児の状態)		頭位 特記事項	骨盤位
分娩所要時間			出血量
出産時の児の状態	性別・数	男・女・不明；単	
	計測値	体重	g
		胸囲	cm
特別な所見・処置	新生児仮死 →		
証明	出生証明書・死産証 (死胎検案)		

# 性別・不明



# 性分化障害の 子どもたち

医療空白地帯の現状

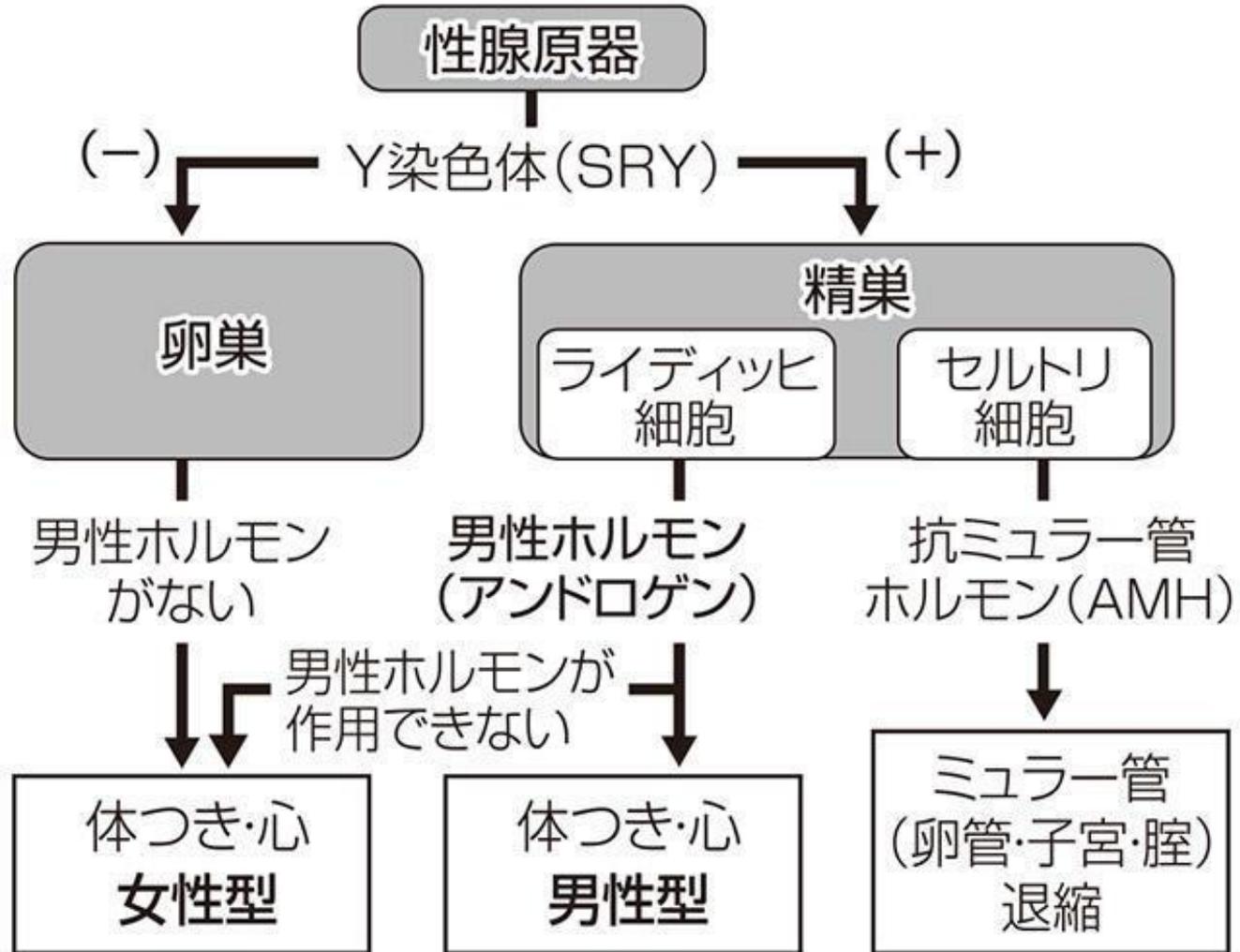
橋本秀雄

一定数生まれてくる、  
性別が真分けにくい  
性別をもつ子どもたち。  
空白地帯が増えている  
種子医療情報を見直し、  
悩む親と当事者に治療方法や  
サポート方法などを具体的に調査。  
性分化障害に医療対応する  
全国の機関リストを解説。

青弓社



# 男女の決定



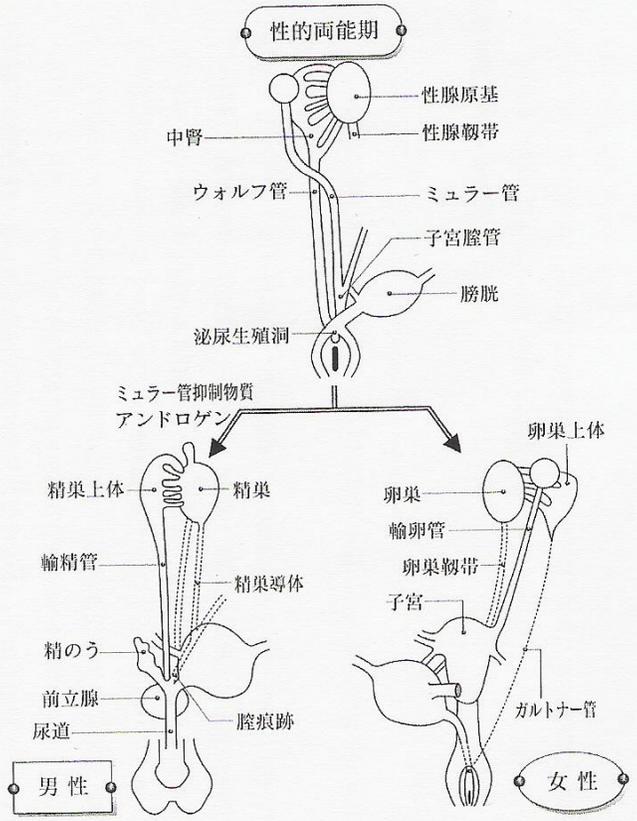
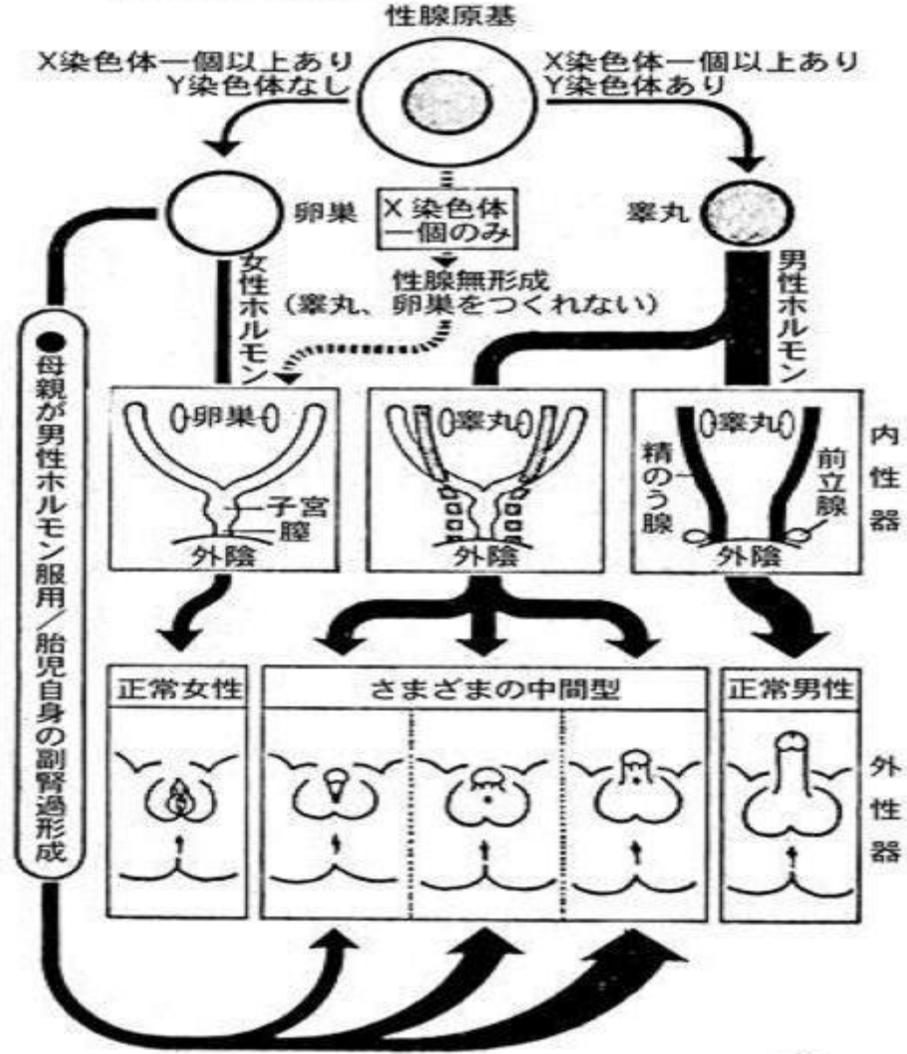


図3 性器の分化, …は痕跡が残るだけか, いずれ消えてしまう

性の形態の分化の全プロセス



性分化疾患とは

卵巣・精巣や性器の発育が非典型的である状態

性分化疾患を疑う所見

外性器所見が典型的男児／女児とは以下の点で異なる。

1. 性腺を触知するか？：停留精巣など
2. 陰茎あるいは陰核の状態：小陰茎あるいは陰核肥大か？

\* 亀頭が露出していれば陰核肥大を疑うが、露出していなくても陰核肥大でないとは言えない。)

3. 尿道口の開口部位：尿道下裂あるいは陰唇癒合がないか？  
通常的位置と異なるか？
4. 陰囊あるいは陰唇の状態：陰囊低形成あるいは大陰唇の男性化  
(肥大し皺がよる) がないか？
5. 膣の状態：膣盲端 (dimple のみの形成もあり) や、泌尿生殖洞  
(尿道口と共通になる) はないか？
6. 皮膚色素沈着はないか？

精巣・卵巣や性器の発育が非典型的である状態を性分化疾患 (Disorders of sex development: DSD) とよぶ。性分化疾患は、出生時の外陰部異常を中核症状とし、出生 4,500 例に 1 例の頻度と推定されるが、広義には二次性徴の発来異常も含まれる。

2006 年、性分化疾患についての国際会議が開催され、統一した国際命名法や患者の取り扱いについてのコンセンサスが発表された<sup>1)</sup>。日本小児内分泌学会からは、その翻訳版が発表されている<sup>2)</sup>。インターセックス (間性)、仮性半陰陽、半陰陽 (雌雄同体)、性転換などの用語は、蔑視的な意味合いから使用が好ましくなく、性分化疾患 (DSD) という用語が、染色体、性腺、解剖学的性が非定型である先天的状態を定義したものとして提案された。また、従来 of 男性仮性半陰陽は 46, XY DSD、女性仮性半陰陽は 46, XX DSD、真性半陰陽は ovotesticular DSD、XX sex reversal (XX male) は 46, XX testicular DSD、XY sex reversal (XY female) は 46, XY complete gonadal dysgenesis へと提唱された。

# 性の定義（橋本秀雄）

- ①性染色体の構成 X性染色体とY性染色体の組見合わせの構成をしているのか？
- ②性腺の構成 卵巣、精巣、卵精巣、線状性腺に分化しているのか？
- ③内性器形態 子宮に分化しているのか？ 前立腺に分化しているのか？
- ④外性器形態 陰唇やクリトリスに分化しているのか？ 陰嚢やペニスに分化しているのか？
- ⑤誕生したとき医者が決定する性 女の子なのか？ インターセックス（半陰陽）なのか？ 男の子なのか？
- ⑥戸籍の性 社会的な性的二元論
- ⑦二次性徴 月経が発現するのか？ 勃起して射精するのか？ どちらも発現しないのか？
- ⑧性自認 女性なのか？ 男性なのか？ インターセクシャル（半陰陽者）なのか？ その他
- ⑨性的指向 女性を指向するのか？ 男性を指向するのか？ 両性を指向するのか？